

駒場東大前駅近くにあるアゴラ劇場に行き、「サントクロース会議」の稽古を見学しました。

その後、俳優の島田曜蔵さんに「役者として、

どのような事を心がけているのか」お話をうかがいました。

この「サントクロース会議」は、子ども参加型演劇で、全国ツアーを行っているそうです。「サントクロース会議」とは、子どもの永遠の疑問「サントクロースはどこにいるの? クリスマス以外は何をしているの?」などの質問に出演者の方々が笑いを入れながら答えてくれるお芝居です。今回、編集員は、その稽古を見せていただきました。稽古では、台本を見ながら演技をしていて、途中でセリフを間違えたり、アドリブを交えたりしながら、繰り返し稽古する場面を見ることができました。「サントクロース会議」は何年も前からやっていて、台本と共に進化し続けているそうです。

俳優・島田曜蔵さんに聞きました。

Q 台本を読むときに、心がけていることはなんですか?

A 台本はセリフがない役の人の方が大変だと思っています。台本を読むときは、台本に書かれた文字をただ読むのではなく、リアクションで気持ちを伝えることを意識しています。セリフの多い役をいたいた時は、ひたすら覚えられます。

Q 台本を覚えるにはどうしたらいいのですか?

A 日常の会話で、劇ができています。だから、友達との会話で台本にある言葉が出てきたら、台本のセリフを返してみます。何をやっていてもセリフが言えるように。また、相手のセリフを録音して、自分も覚えていきます。

Q 舞台で楽しいことはなんですか?

A お客様の反応です。反応があるお客様の方が楽しいです。反応がないと、不安になります。「お客様がいて始まるのがお芝居ですから。役作りはどうしているのですか?

A 自分の中にあるものと、役の中にあるものとの共通点を入れます。想像など自分の中から膨らませて、役をイメージします。

Q これまでに演じた役で、特に印象に残っているものはありますか?

A 体が大きいのを生かせるようにと、台本になかった相撲の関取の役を作ってくれたことがあって、すごく嬉しかったのを憶えています。

Q 共演者や裏方と接するとき、心がけていることはなんですか?

A 劇団員の人は家族のような存在です。信頼関係がないと良いものは生まれません。お互いの良いところを見つけていくのが大切です。スタッフを特に大切にしています。「スタッフがあつての劇団」です。

Q 舞台に立つと緊張しますか?

A いい意味での緊張はしますが、あまり舞台で



▶この看板が目印!

▲見学させていただいた「サントクロース会議」の稽古風景。

こまばアゴラ劇場

東京都目黒区にある小劇場。

劇団青年団の主宰である平田オリザさんがオーナーを務める。舞台空間と客席が密着した臨場感あふれる小劇場。

京王井の頭線駒場東大前駅から徒歩 3 分。



サントクロース

1975 年生まれ。石川県金沢市出身。1997 年より劇団青年団に入団。同劇団の人気作『ヤルタ会談』に初演時(2003)からチャーチル役で出演。2008 年からは子ども参加型演劇『サントクロース会議』で全国を巡演するほか、国際交流企画にも多数参加。映画『踊る大捜査線 THE MOVIE 3 ヤツらを解放せよ』への出演がきっかけで、同監督の本広克行氏が手掛けた演劇作品『演劇入門』(2010)にもキャスティングされ好評を得る。

しまだようぞう
島田曜蔵さん

●今まで見た劇場は、演者(俳優)と観客の距離があったけれど、アゴラ劇場は客席との距離が近く感動しました。稽古見学もとても楽しめました。(斉藤麗) ●劇場に行ったり俳優さんにインタビューするのは、初めての体験でした。初めて見たものや初めて聞いたことなどたくさんあって、すごく楽しかったです。(兼平) ●プロの俳優さんの演技を近くで見てみて、迫力があってすごいなと思いました。(清水) ●その演技力に圧倒されました。そして皆さんが、とても個性的でとてもかっこよく見えました。皆さんも是非見に行ってください。(小川) ●最初の方は、何をやっているのかイマイチわからなかったのですが、観ているうちにストーリーがだんだんわかってきて最後には、すっかり引き込まれました。今まで学校で学芸会とかしかみたことがなかったので、いい思い出になりました。(齋藤龍) ●劇団青年団の皆さんの、表現力、迫力のある声、そして観ている人を引き込むような感じに圧倒されました。(横山)



▲間近で舞台稽古を見学する編集員。

取材・文：小川開世、兼平すず、斉藤麗、齋藤龍星、清水あい、谷口櫻、横山香乃 イラスト：谷口櫻